

# ふたつの淵（室生向淵）



龍王ヶ淵

室生向淵には、谷を隔てて南北にそれぞれ淵があります。ここにふたつの「向かいあう淵」があることから「向淵」という地名が誕生しました。古くは、竹溪村とも呼ばれ、奈良時代には聖武天皇が伊勢への行幸の際、ここに立ち寄ったともいわれています。飯降淵の周辺には、いくつかの伝説があります。昔、飯降淵には、龍神が棲んでいたという伝説があります。ある人が、ここで汚物を洗ったところ、水をたたえた淵は、たちまち沼地へと変わり、龍神は南の山へと遷ってしまい、龍神が新たに降りたところが「龍王ヶ淵」といわれています。

▼南側にあるのは、「龍王ヶ淵」。昔、干ばつの時に松明をもって「雨たんぷりたんぷり」といって淵を巡ると必ず雨が降ったといわれています。雨乞いの祈りが龍神信仰とも重なり、「龍王ヶ淵」と呼ばれるようになったのでしょう。

▶もうひとつは、北側にある「飯降淵」。今は水田となっていますが、淵の周りが道と残っています。

（参考文献 『室生村史』 昭和 41 年）



飯降淵



今日の  
Pick Up

## 桜花爛漫

～宇陀の桜～

自粛などでゆっくり桜を見ることができませんでしたが、今年も市内各地できれいに咲きました。

